

子供の生活と教育

文學士 河野清丸

教育は被教育者の發達の段階に相應したる生活をなさしめ置き、之を合理的に指導することによつて最も効果を擧げ得るのである。幼稚園、小學校初年級程度の子供の教育に對しては殊に之が適切な問題であると思ふ。現在の學校教育はとかく社會及び家庭と全然没交渉な一劃をなした別世界の如き觀ある教育に偏する事が尠くないのである。教育者は餘程この點に留意して自ら反省し、教育そのものゝ根本義を逸せざるやうにすべきである。教育はどこまでも生活を中心としたる教育でなければならぬ。換言すれば教育即ち生活であるべきを必要とするのである。

されば吾人は如何にして子供をその個々の生活より合理的に誘導して教育の効果を實現すべきであらうか。それには先づ子供の生活を詳さに洞察すべき必要がある。かうした研究の結果吾人は子供を誘導するに際して大體次の三方面より入るを最も上道かと信ずるのである。

子供には自己の必要からものを作成しやうとする創作慾がある。だから吾人はこの心の働きを善導して生きた教育をなさねばならぬ。

ルソーは『予はかつてある幼稚園を訪門した際、適々一幼児が熱心に自分のノートの上に自分の頭文字を幾つも幾つとも書き並べてゐるのを見た。ふしぎに思つてよく訊してみるとそれは自分のマントの襟につける爲に名前の頭文字を練習してゐるものと知れた。両親や姉が教へてくれない爲に、幼児自身でそれをなさうと努力してゐるのであらうが、これを見

て予は子供が如何に自己の必要から爲すことに熱心であるかといふことを知つた」と言つてゐる。

私の學校(東京女子大學附屬小學校)では全生徒中和服が二パーセント位であとは全部洋服でやつて來るが、その爲最近上級生には洋服の裁縫をすゝめてゐる。つまり子供自分達の着るものが洋服であるのに日本服ばかり縫ふことはその必要から起る満足を與へないのみならず、一面趣味を失ふことにもなるからである。學校で子供にカレンジャーなどを作らしめて自宅に持ちかへらすことなども家で使用するといふことの必要を感じる、その要求を充たす目的を以てやるのである。

マクマレーであつたか「人生教育の目的には一般目的と特種目的との二つがある」と言つてゐる。一個の文章を書くとしても、それを思想を他人に傳達する爲或はそれを保存する爲に書くことすれば、これは一般目的の部類に入る。特種目的とは友達を案内する書簡又は時候見舞、病氣見舞等の類を言ふ。一般目的は抽象的で特種目的は具體的であるとも言へる。學習的には特種目的を以てするのが必要の原理である。

子供の教育は可成その趣味に適した教育の仕方であらねばならん、そうでないと子供は乾燥無味なその教育から倦怠を生じて仕舞ふのである。しかしこれは現在の如き準備教育即ち他日の目的の爲にする教育と屢々相容れない所があるから當事者は餘程考慮すべき問題であると思ふ。

又子供の教育には子供の能力に適するといふことを考へなければならん。如何に必要があつても、興味があつても能力に適しないしごとはかへつて子供を害するものである。

モンテソリーは『子供にアバラタス(三歳位から七歳位までの子供の感覺教育に用ふる道具)を選ばしめるとき四歳位の子供が七歳位の子供のもつやうな道具を選んで敢て干渉はせずに置く、選擇を誤つても咎めないで置く』と言つてゐる。

すれば子供はその道具を使ひきれなければすぐにやめて他の方を選ぶからである。子供はその間に出來ないといふこと

を體驗する。だから幼稚園などの子供は能力に適しないものを選んであへて咎めなくともよいが、指導するものゝ頭には常に子供には能力に不適當なものをやらせないといふ考へは持つてゐる必要がある。そうでないと子供にはじめての仕事に對して根氣がなくなるやうな性質を培ふことになるからである。ましてや教師が課してやらせる仕事などは餘程この點に注意しなければならぬ。そしてこれを段々連續的に發展せしめていかねばならぬ。子供の能力は年と共に進展して行くから子供自身の選ぶ道具や仕事も自ら複雑になつてくる故、教育者はつねに之を念頭に置かねばならぬ。

繪畫や文章など、子供の成績品を評價するにも低きより高きに漸進的に標準を高めゆく必要がある。「夏の夕方」と稱する課題の作文に對して秋の夕暮や、春の夜などの氣持が出てゐる文章を吾々は題外れと稱してゐるが、そうでない限り我々は、初めの中は子供の作品は單に題に叶つてさへおればそれでよしとする。而して漸次その標準を進めて文章ならば敘述の順序、それが出來たら文藝的文辭の使用、冒頭、結末等に注意する。つまり標準をだん／＼精密にすることである。かくすれば初めから六ヶ敷いことに逢着せぬ故文章は六ヶ敷いものである、手の出せないものであると言ふが如き臆病になることはない。そして子供の心に自信をつける。かくする一面にあつては教師は子供の文章にいつまでも朱點を入れてやるから子供は、容易しいものだが仲々到り難いものであるといふことを自覺する。そして慢心も起さず、自棄にも陥らないで楽しく勉強するやうになるのである。一般家庭の父兄にあつては實に急進的に智識の注入しやうとし、それが爲に子供の進歩を阻害し、自信を害ひ、あたらず子供をいぢけさして仕舞ふやうなことは屢々見聞することであるが、これは教育者、保護者共に大いに警戒すべきことである。(文責在記者)